



新潟市歴史博物館
博物館ニュース
vol.52

帆檣成林

—はんしょうせいりん—

「帆檣成林」とは？

帆柱が林のように多く立つ様子を表した語。
人が多く出入りする活気ある「みなと」をイメージしました。

CONTENTS

特集1	みなとびあの コロナ禍での取り組み	P.2~3
特集2	企画展 「みなとまち新潟の記憶 —新潟町会所文書の世界—」	P.4
歴史さんぽ	みちびきの像	P.5
おすすめの冊子	大学的新潟ガイド—こだわりの歩き方	P.5
特集3	企画展「川・街・港 変わりゆく風景」展	P.6
館長日記	巻菱湖の手紙	P.7
収蔵資料紹介	飾り箱（二代目萬代橋の橋板製）	P.7

■ 帆檣成林「はんしょうせいりん」第52号 ■ 発行日 令和3年4月21日
■ 編集・発行／新潟市歴史博物館 〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
■ 印刷／株式会社博進堂



【たいけんのひろばプログラム】

楽しみながら、遊びながら、昔のことを学びます。

日時	タイトル	内容	申込み・対象・参加費
5/2日 14:00~15:00	かぶとを折ってみよう	大きな紙を使って、かぶれるサイズのかぶとを折ってみます。	どなたでも・申し込み不要・当日先着10名・無料
5/3月祝 14:00~15:00	飛行機をつくろう	牛乳パックを使って、よく飛ぶ飛行機を作ります。作ったら、外で飛ばして遊んでみます。	どなたでも・申し込み不要・当日先着10名・無料
5/5水祝 14:00~15:00	こいのぼりをつくろう	身近なものでこいのぼりを作ります。よく回る風車も付けて、こいのぼりを風の中で泳がせてみます。	どなたでも・申し込み不要・当日先着10名・無料

お申し込みは、電子メール・往復はがきで当館まで。申し込み締切日は、当館までお問い合わせください。

現在開催中の企画展

「みなとまち新潟の記憶 —新潟町会所文書の世界」展

「新潟町会所文書」は、信濃川河口西側一帯にあった新潟町に関わる江戸・明治初期を中心とした文書・絵図に、近代以降さらに一部の文書が混入した史料群です。これまで「みなとまち新潟」の歴史を語る上で欠かせない史料としてたびたび活用されてきました。本展ではこの「新潟町会所文書」を通して「みなとまち新潟」を見つめ直します。

会期 2021年4月10日(土)~5月30日(日)
休館日 毎週月曜日、5月6日(木) ※5月3日(月)は開館
観覧料 一般:500円 大学・高校生:300円 小・中学生:200円
※常設展示観覧料を含む、土日祝日は小中学生無料
主催 新潟市歴史博物館
共催 新潟日报社
後援 朝日新聞新潟支局・毎日新聞新潟支局・読売新聞新潟支局・日本経済新聞新潟支局・産経新聞新潟支局・BSN新潟放送・NST新潟総合テレビ・TeNYテレビ新潟・UX新潟テレビ21・エフエムラジオ新潟・FM KENTO

次回企画展

「第58回現代工芸新潟会展」(主催:現代工芸新潟会)

会期 2021年6月26日(土)~7月4日(日) ※6月28日(月)は休館

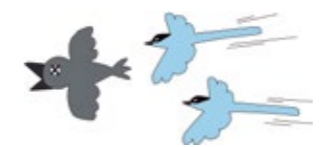
「川・街・港 変わりゆく風景」展

新潟の街を数多く撮影してきたアマチュアカメラマン桜井進一氏の作品を展示します。写真を志した青年桜井進一が最初に向き合った大イベントである新潟県産業観光大博覧会を皮切りに、信濃川でのヤツメ漁、信濃川沿いを走るSL、信濃川右岸の砂利採り場など昭和30~40年代に見られた日常風景を始め、新潟地震での被害状況や再開発で変化する新潟港の姿、信濃川右岸の万代シティの変化を取り上げ、信濃川を軸に大きく変わる町の様子を紹介します。

会期 2021年7月17日(土)~8月29日(日)
休館日 毎週月曜日、7月27日(火) ※8月9日(月)は開館

みなとびあ便利

春になると鳥たちのドラマが敷地で展開されます。比較的朝早くにやってくるのはメジロの小さな群れ。枝にとまってかわいい姿を見せたかと思うとすぐにいなくなり、続いてスズメの群れがやってきます。人に慣れているのか好奇心旺盛なのか、「チュンチュン」と鳴きまねをするとスズメは近づいてきます。その後我が物顔で居座るのがムクドリです。ドバトとともに普通に見ることができます。そして、敷地内最強の鳥がカラスです。子育ての時期は猛威で、上空を滑空しながら威嚇してきます。が、最近オナガの出現により勢力が弱まってきたようです。数羽のオナガに追い回されている姿を見かけます。ちなみに去年はウグイスが館内に侵入し、ちょっとした捕り(鳥)物がありました。(小林)



みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史を親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体のみなさんからご協賛をいただいています。



展示解説会

日時:4月25日(日)、5月9日(日)、5月30日(日)
各回14時~14時30分(30分程度)
会場:本館1階企画展示室
申し込み:不要 ※当日企画展観覧券が必要
講演会「新潟町会所文書」が伝えること
日時:2021年5月15日(土) 13時30分~15時
会場:本館2階セミナー室
定員:60人 ※応募多数の場合は抽選
申し込み:氏名・電話番号・住所「新潟の記憶展 講演会」を明記の上、電子メールか往復はがきで5月5日(水)までにお申し込み下さい。
料金:100円

博物館講座

当館学芸員が調査・研究をすすめているテーマについて、毎月4日曜日にお話します。
※内容が変更になる場合があります。ホームページでご確認の上、お申し込みください。

【時間】 10:00~11:30
【会場】 本館2階セミナー室
【申し込み】 要事前申し込み(定員60名程度)
【資料代】 100円

- ◆5月の講座: 5月23日(日) ※申し込み開始:5月5日
近世・近代資料でみる蒲原の古墳
講師:小林隆幸
- ◆6月の講座: 6月27日(日) ※申し込み開始:6月9日
新聞小説からみた明治新潟
講師:鈴木彩也花
- ◆7月の講座: 7月25日(日) ※申し込み開始:7月7日
溝口秀勝とその時代
講師:田嶋悠佑
- ◆8月の講座: 8月22日(日) ※申し込み開始:8月4日
新潟へやってきた画家 増原宗一
講師:大森慎子

お知らせ

■2021年6月7日~14日まで薬剤燻蒸のため休館します。

旧小澤家住宅企画展

開館時間:午前9時30分~午後5時
休館日:原則月曜日、祝日の翌日、年末年始
入館料:一般200円
小中学生100円(土・日・祝日は無料)
会期:4月10日(土)~7月11日(日)
所在:新潟市中央区上大川前通12番町2733
(みなとびあから約800m、徒歩12分)
TEL:025-222-0300

編集後記

今回はコロナ禍における取り組みについて特集しました。最近、新潟市では地域への関心が高まり、ガイド団体の活動が積極的になっているという話を聞きました。国外や県外に出ることができない今、市民のなかで地域を見つめ直そうとする意識が芽生えているのではないかと思います。「地元の歴史を改めて知りたい、調べてみたい」という方は是非地元にある博物館・資料館を訪ねてみて下さい。(鈴木)

お問い合わせ・申込みは博物館まで

新潟市歴史博物館 みなとびあ
住所:〒951-8013 新潟市中央区柳島町2-10
Tel:025-225-6111 Fax:025-225-6130
E-mail:museum@nchm.jp URL:http://www.nchm.jp
【休館日】毎週月曜日、祝日の翌日・年末年始(12/28~1/3)
【開館時間】(4-9月)9:30~18:00/(10-3月)9:30~17:00



特集1 みなとびあのコロナ禍での取り組み

田嶋 悠佑

昨年二月二十九日、私は当館のボランティアに応募したみなさんに、常設展示室の解説研修をしていました。お昼になるうかという時、他の職員が常設展示室に走ってきて「新潟県内で新型コロナウイルス感染者が確認されました。研修は一旦中止します」と告げました。あれから一年以上が経ちました。新型コロナウイルスとの戦いは、いまだ終結の見通しが立っていません。

新型コロナウイルスが国内で初めて確認されたのは二〇二〇年一月十五日ですが、新潟市内では二月に入ってマスクやアルコール消毒液などの入手が困難になったものの、二月二十九日まではいまだ大きな混乱はなかったように思います。

県内での新型コロナウイルス感染確認により、県の文化施設が二週間の休館を発表するなど県内で一気に緊張感が高まりました。みなとびあは、休館こそしなかったものの、二月二十六日に政府から出されたイベントの二週間自粛要請が相次いで延長され、三月二十一日に予定されていた『復活！白山詣で〜江戸時代の古町の賑わい再現』行列や館長講座などのイベントが中止となりました。みなとびあでは、四月に入って企画展「いっぴん」を開幕することができたものの、

感染抑制のための「緊急事態宣言」が全国に発令され、四月二十一日から三週間休館しました。

緊急事態宣言下では、館内へのアルコール消毒液の設置をはじめ、飛沫拡散防止やソーシャルディスタンス確保のための設備を設置しました。

また、新型コロナウイルス感染拡大で利用者の来館が困難になったため、インターネットを用いたコンテンツの配信を行って、博物館の活動のアピールを行う試みを始めました。

まず、三月には外出が難しくなる中、ツイッターを利用した館蔵資料の公開や「古文書クイズ」の出版の試みを行いました。ツイッターは、ツイッター社の提供するソーシャル・ネットワーク（SNS）で、一四〇字までの短文や画像などの「ツイート」という投稿ができます。二月末には、先んじて休館に追い込まれていた関東地方の博物館などがツイッター上で「エア博物館」「おうちミュージアム」と題し、博物館の資料や活動を紹介する活動を始めました。みなとびあでは、二〇一〇年からすでにツイッターを開始しており（<https://twitter.com/minatopia>）、三月三日から博物館の紹介などを始めました。ツイッター上での活動の一つ、「古文書クイズ」をここで紹介します。

の試みは、古文書のくずし字画像をクイズとして出題し、翌日回答を出すというものです。対象はくずし字を勉強していない方から、初学者を想定していました。博物館の情報を一方的に提供するだけでなく、閲覧した方々に考えてもらえるような試みで、休館日を除き二週間毎日継続しました。なお、このクイズは、古文書のくずし字辞書などを手掛ける柏書房のツイッター（<https://twitter.com/kashiwashobo>、二〇二一年三月二十四日閲覧）が、以前行っていたクイズに着想を得ています。

ツイッターと同様に資料の公開を行うほか、すぐろくの画像データなど、子どもたちが印刷して家庭内で遊べるような情報も提供しました。また、「おうちミュージアム」と平行して、みなとびあでは所蔵している明治時代の古写真や江戸時代の古文書などをまとめて、「おうちみなとびあ」として公開しました。これらは、ツイッターと異なり、ホームページ上で情報を整理して提供しているため、さかのぼって資料情報などを見ることができず。

ツイッターは投稿がしやすく、すぐ情報を出せるのが利点です。しかし、情報をさかのぼって閲覧するのが難しく、またホームページに比べると、利用していない方には少し敷居が高いなどの難点があります。

四月に入り、緊急事態宣言が出されるとみなとびあの活動も著しく制限されました。その中で、ホームページ上での「おうちミュージアム」公開に向けた活動が始まりました。この試みは休校中の子どもたちに向けて、北海道博物館が始めた取り組みで、賛同した全国二二〇の博物館が共通のロゴマークを使いながら、各館のホームページ上でコンテンツを展開しているものです。当館では、ホームペ



おうちみなとびあ

どを、まず再開してもよいことが発表されました。みなとびあは緊急事態宣言が解除された五月十二日から再開し、企画展は期間を延長して開催するなど、徐々に館活動を正常化させていきました。

他にも、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、以前と異なる対応をしていることもあり。例えば、来館者にはマスクの着用を呼びかけ、職員もマスクを着用して対応をしています。展示に関しては、博物館や展示室の入り口に消毒液を設置し、たいけんの広場などでは資料に触れる展示（ハンズオン）を中止し、代わりに資料展示をしました。また、ライブラリーでは、コピー作業をいままでもセルフサービスとしていたものを職員が行い、十二時から十三時までを休止時間としています。



シアターは1人おきに座るようにした

イベントについても夏ごろから感染拡大に注意しつつ、再開しています。例えば、たいけんプログラムは七月から徐々に再開して、参加者にはアルコール消毒や検温、連絡先の記入を行ってもらい、万一の場合に備えています。講座も同様で、座席を指定してソーシャルディスタンスを保ち、連絡先の記入をしてもらっています。



講座ではアクリル板設置や座席指定を実施

みなとびあは、新型コロナウイルス感染拡大の下でもなるべく活動を維持し、インターネットを利用した新たな試みを行うなど、できる限り市民へ活動を還元できるように努めてきましたが、その中でいくつか課題もみえてきました。

例えば、インターネットを利用した試みでは、「古文書クイズ」難易度の

設定が難しかったということがあります。参考にさせていただいた柏書房のツイッターの場合、辞書用に作製された一文字ずつの平仮名のくずし字を、自由に組み合わせ出題をしていきましたがみなとびあの場合は既存の古文書から出題するので、文字の読みやすさや古文書の内容を勘案すると出題できる内容がかなり限定されました。

また、ツイッターでは「ツイート」に対し、返事を書くことができる「リプライ」は基本的に誰でもみることができ、利用者の交流の一端になるものです。しかし、この機能を使い、「くずし字クイズ」の答えが出題後すぐに書き込まれてしまい、その後の人に答えが分かってしまうなど想定外のことも起こりました。双方方向にコンテンツを楽しんでもらうことの難しさを実感しました。新型コロナウイルスの感染拡大により、引き続き県内外での人の動きが制限される中で、インターネット上での情報発信をどう行っていくか考える必要があります。

博物館への来館が制限されることで、実物資料のサイズ・材質の感覚を体感してもらおう展示の観覧や、昔の遊び・仕事の技法などを体験するたいけんプログラムなど、博物館ならではのコンテンツを利用者が楽しむ機会が失われています。また、みなとびあで大切にしてきたボランティア活動など市民交流の機会も大幅に減っています。例えば、インターネット上で動画を置いて展示紹介をしたり、市民

交流の機会を設けたりといったことも考えられますが、やはり実際の来館に勝るものは無いように思います。

みなとびあの昨年度の状況をみますと、「にいがたの昭和」展が平成二十七年以来、来館者一万人を超える好評を博しました。みなとびあの来館者は、これまで県外からの観光客が多くを占めていましたが、現在のような状況下において、来館者数が新潟市民（あるいは県民）に支えられたものと考えられます。このことは、企画展などの事業テーマを再考することで、地元の新潟市民を主とした潜在的なニーズを掘り起こせる可能性を示していると思います。

新型コロナウイルス感染拡大を、一日も早く終息させることが第一目標であるべきだと思います。その中で、みなとびあは何ができるか、手探りしながら、これからも活動を続けていきたいと思っています。

（たじま ゆうすけ 学芸員）

ここからアクセス！



はじめに

わたしたちが過去を知る方法はさまざまありますが、そのうち「過去から現在に伝わったモノ(資料)を観察する」ということは最も基本的なことのひとつのように思えます。文書や絵図もそうした観察を行うべき対象のひとつです。そこに書かれた文字、描かれた線や塗られた色、あるいは料紙の特徴など、たくさん貴重な痕跡をよく観察することで、いまわたしたちはありありと過去を知ることができます。

新潟町会所とは

かつて信濃川河口左岸にあった新潟町は幕末期に人口およそ三万人を数え、多くの船と人の往来でにぎわった繁華なみたとまちでした。この新潟町には有力な町人から選ばれた町役人たちが集まって町の運営をしていた町会所という所がありました。町会所は貞享五年(一六八八)五月の魚売りに関する文書の奥付けに「会所」という文字がみられるので遅くともこの頃にはあったようです。

この町会所ではさまざまな文書や絵図が日々作られ受け取られ保管されてきました。そのなかで現在確認できる最も古いものは江戸時代初期、慶長十五年(一六一〇)九月の松平忠輝家臣が

「いかた町中」に宛てた伝馬に関する「定」です。「町会所文書」にはこうした町のルーツに関わる近世初期の文書も数点含まれており、そのうち松平忠輝と堀直寄に関する六点は市指定文化財となっています。また「写真」は寛政九年(一七九七)のときに町会所で作られた文書目録です。こうした目録は江戸時代だけでも他に文政三年(八二〇)、天保三年(一八三二)に作られていることが確認できます。

その後、明治十二年(一八七九)に行政区分としての「新潟町」はなくなり新潟区となりましたが、これらの文書のうち江戸時代に整理されていたものの一部は火災をはじめとした幾多の危険を乗り越え、新潟区がさらに新潟市となった後も保管され続けました。ちなみに「表」は明治十三年(一八八〇)に新潟区役所によって作成された文書目録をまとめたものですが、ここからも町会所に伝わったこれらの文書が町内のみならず、町が関わった諸地域の文書も多く含んでいたことがわかります。さらにこれらの文書に、近代以降一部例外はありますが、おおむね昭和十八年(一九四三)までに作成された文書や地図、写真なども混ざりました。代表的なものには「新潟市史」(昭和九年版)編さんに関わるものや竹内武郎関係の書画など

「いかた町中」に宛てた伝馬に関する「定」です。「町会所文書」にはこうした町のルーツに関わる近世初期の文書も数点含まれており、そのうち松平忠輝と堀直寄に関する六点は市指定文化財となっています。また「写真」は寛政九年(一七九七)のときに町会所で作られた文書目録です。こうした目録は江戸時代だけでも他に文政三年(八二〇)、天保三年(一八三二)に作られていることが確認できます。

分類	件数
旧町会所書類付取締書類	51
地籍関係書類	14
沼垂湊出入書類	52
沼垂書類	49
三湯書類	20
嶋々書類	47
長岡藩ヨリ旧幕府へノ上知御維新迄ノ書	28
新潟書類	40
手当方関係書類	30
寄居村書類	13
寺院書類	11

です。そしてこれら一連の資料は昭和五十年(一九七五)新潟市庶務課から当館の前身、新潟市郷土資料館に「新潟町会所文書」として移管され、現在は当館が管理しています。

おわりに

このように「町会所文書」は江戸時代初期から明治初期までを中心としつつ、二〇世紀半ば頃までに至る近代資料を含んだ、複合的な文書群となっています。こうしたことから「町会所文書」はこれまで新潟市の歴史を紐解こうとする際、たまたみ基礎史料のひとつとして用いられてきました。本展ではこうした

「町会所文書」のさまざまな史料に光を当て、みなとまち新潟の記憶を呼び起こします。

(あたか しゆんすけ 学芸員)



写真 寛政9年(1797)の文書絵図目録(壹番之入記、貳番・三番之入記、四番之入記、五番之入記、六番之入記(当館蔵))

背景写真 町会所にかつてあり勝楽寺に移された「時の鐘」(当館蔵)

うとするものである」と刻まれています。2019年、国土地理院は13年ぶりに新しい地図記号を導入しました。「自然災害伝承碑」です。「過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害に係る事柄(災害の様相や被害の状況など)が記載されている石碑やモニュメント」と定められ、それらの碑を「地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つ」としています。10年前の2011年東日本大震災ののち被災地では、過去の被災場所や津波の高さが示され、警句が刻まれるなどした石碑の存在が見直されました。

新潟市の自然災害伝承碑は現時点で6基。そのうちのひとつが「みちびきの像」です。自然災害伝承碑は、全国的にも形態が多岐にわたっているようで、それぞれの経緯でその場所に存在する野外建造物を地域の「災害を伝えるもの」という観点で改めて分類化する試みといえるでしょう。それらは災害史のわずかな一部ですが、身近な災害を意識するアプローチの一つになると思います。ほかの碑については、国土地理院のウェブサイトにてご確認ください。

中村 里那(なかむら さとな 学芸員)



歴史さんぽ

みちびきの像

中央区一番堀通町

新潟県民会館の北口に子供たちの彫刻があります。一見にぎやかに駆け出す姿にも見えますが、これは昭和39(1964)年新潟地震時に避難する小学生たちとそれを誘導する教師をあらわしています。地震から3年後の昭和42



地図記号 自然災害伝承碑

(1967)年、「開港記念100年・震災復興記念新潟大博覧会」が松波町海浜(現西海岸公園市営プール周辺)にて開催され、震災時の小中学校の記録「大地裂くるも子らを放さじ」(新潟市教育委員会、1964年刊)から題材をとった石膏像が展示されました。博覧会事務局が、新潟市の画家・デザイナーである金井二郎(1931~2018)に依頼したものです。博覧会終了後同年11月、新潟地震の復興を記念し、県民の教育・文化の発展と県民生活の向上に寄与する施設として新潟県民会館が開館。そこに、同じ題材のセメント彫刻が「みちびきの像」として新たに建造されました。制作者は彫刻家の早川亜美(1912~80)、昭和38年新潟国体の火焰土器型聖火台(現新潟市陸上競技場所在)や翌年赤塚中学校の白鳥像「飛翔」なども制作しています。台座は新潟青年会議所が寄贈したもので、「地震当時をしのびそのさなかに具現された師弟間の愛情の交流の美しさを後の世まで伝えよ

おすすめの1冊

大学的新潟ガイド

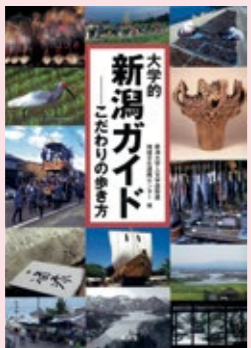
——「だわりの歩き方」

本書の特色は私たちもなじみのある「新潟のいま」を出発点として、現代の新潟を形作ってきた歴史の「新潟のあゆみ」、その背景にある生活文化の「新潟の暮らし」と綴る三部構成とす点にあります。

新潟大学教員による主題の一五章、大学教員に加え各分野の研究者による一六のコラムからなり、日本酒、原発建設計画、水俣病、災害ボランティア、ローカルアイドル、縄文土器、日本海交流等々の多彩なテーマが取り上げられます。新潟という地域を枠組みとして意識しつつ、それぞれのテーマを専門的な知見から読み解かれることで、読者はあたかも博物館の展示を見るように、新潟の姿を理解し、位置づけることができます。

新潟の歴史や文化はそれぞれよく知られたものも多く、しかし輪郭を持った一つの像として捉え難い面があります。本書は、地域の人々が風土の中で積み重ねてきた多様な事象を多面的に着目し、その歴史的経緯と社会的な意味を読み解いて新潟という地域の内実を実感させてくれます。

(森 行人 学芸員)



新潟大学人文学部附属 地域文化連携センター 編集 株式会社昭和堂 発行 2021年3月

来る七月十七日より開催する本展は、新潟の街を数多く撮影してきたアマチュアカメラマン、桜井進一氏の作品を通して、新潟の街の移り変わりをみる展覧会です。本稿では、展覧会開催にさきがけ知っておくと展覧会がさらに楽しめるトピックを3つご紹介します。

【新潟県産業観光大博覧会】

桜井進一が、カメラマンとして初めて向き合った大イベントが、昭和二十八年（一九五三）年に開催された新潟県産業観光大博覧会でした。桜井進一、高校三年生の夏のことでした。

そもそも、昭和十三年、新潟開港七十年を記念しての「日本海大博覧会」が開催される予定でしたが、時局が戦争へと突き進む中、日本海大博覧会は開催前年に中止となったのです。

戦後、博覧会開催の機運が再び高まりました。日本がサンフランシスコ平和条約に調印して占領状態から主権を回復したのち、昭和二十七年に博覧会の開催が決定しました。

新潟市公会堂・総合運動場一帯と白山公園を会場に、七月一日から八月三十日まで二カ月間に渡り開催された博覧会には、沖繩を除く四十六都道府県からの出品があり、四十四の特設館が設置されました。会期中に開催された新潟まつりでは神輿や山車も博覧会

場を練り歩き、まつりを盛り上げました。二日間の入場者数は四万人、会場も新潟の街も大いにぎわったようです。

【信濃川兩岸の移り変わり】

大河津分水の通水で信濃川の水量がコントロールできるようになったため、埠頭を持つ近代的な港の建設とあわせ、信濃川下流の兩岸は埋め立てられて、土地利用が可能になりました。大正期に進められた竜が島の築港が完成した昭和初め、兩岸の埋め立てが始まりました。

第一期工事は萬代橋から県会議事堂までの間の兩岸を対象とし、埋め立て開発の一環として昭和橋がつくられました。昭和六年のことです。左岸側には新設の白山小学校がつけられました。

右岸側はその多くが鉄道省鉄道局開局の誘致に使われました。昭和十一年、新潟鉄道局が開局し、埋立地には庁舎や鉄道病院など多くの鉄道機関が建設されました。

萬代橋下流は昭和六年から西岸の護岸工事が行われ、萬代橋下流左岸が埋め立てられると、本町通十一番町にあつた二つの魚卸売市場は埋立地の柳島町に移転しました。昭和二十八年、信濃川右岸万代島対岸に水産物揚場が完成し、水産物の取引は柳島町と東港線の二か所で行われました。昭和三十九

年の新潟地震では両施設とも壊滅的な被害を受けました。これ以後、柳島町の市場は廃止し、水産物の取引は万代島周辺で行われるようになりました。

【新潟駅の歴史】

明治期、北越鉄道の新潟―直江津間の敷設が決定しました。資金難から、起点である新潟の駅は沼垂駅として竜が島に作られることになりましたが、これに反対する市民の思いは沼垂駅の機関庫や新栗の木川鉄橋などの爆破事件を引き起こしました。

沼垂駅開業後も新潟駅設置を求める運動は続き、萬代橋東詰近くに新潟駅を設置することになりました。沼垂駅から本線を延長し、信濃川べりを通って新潟駅に至る路線です。明治三十七（一九〇四）年、新潟駅は現在の弁天公園付近に開業しました。

戦後、新潟駅周辺の鉄道線路を組み替える改良計画に基づき、貨客分離のため、昭和二十六年、万代島に貨物駅の万代駅が開業しました。万代島は幕末から明治の初めに形成された信濃川下流の中州島でしたが、戦時中に石炭荷役施設増強のために埋め立て整備され、現在のような半島状になりました。しかし、万代駅も新潟地震で壊滅的な被害を受け、廃止となりました。新潟駅は、昭和三十三年、現在の場所

に移転し、名品パートや食堂などが出店しました。

博覧会が開催された白山公園周辺は当時の風情を残しながらも、現在はゆとりとびあが新たなランドマークになっています。信濃川兩岸はマンションが立ち並び、万代シテイの開業や万代島再開発、やすらぎ提の整備でウォーターフロントとなりました。新潟駅は新駅建設が進んでいます。

本展ではこれらの移り変わりの様子をご覧いただきたいと思えます。ご来場をお待ちしています。

（あいの かおり 学芸員）



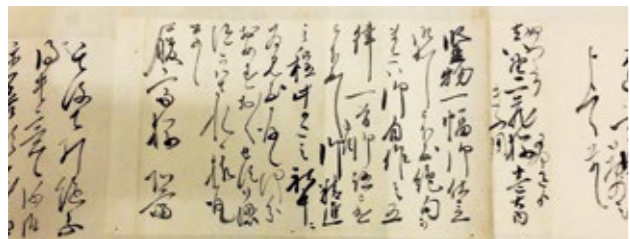
信濃川べりを走るSL 昭和34年11月6日
撮影：桜井進一「新潟わが青春の街角」所収

巻菱湖の手紙

情けない。巻物を広げ最初の一通をみて「なんで御馳走の礼状を巻物にしてるんでしょね。」などと言いながら、いただいてきました。館で広げて三通目に「巻右内」とあり、初めて巻菱湖の書簡を巻子に仕立てたものと気が付きました。手本の菱湖の字しか思い描いていなかったのが、書簡の大胆で勢いのある文字が菱湖とは思いませんでした。

巻子は、沼垂の真野二蔵や乙蔵らへあてた、五月から翌二月までの一〇通の書簡でした。年代は、記載されている書籍名などから文化十一（二八一四）十二年かと推測します（新収蔵品展では文政十三（二八三〇）年としましたが訂正します）。書簡は色々なことを教えてくれます。菱湖が真野家と深いつきあいをしていたこと。新潟で「石川次右衛門」や「大塩源右衛門」の世話になっていること。「市島次郎八」や「板三輪」などの豪商と交渉を持っていること。新発田・三条・与板・長岡・柏崎などの文人たちの「社中」と交流し、書画会や展覧会を開き、書や漢詩の指導をしていること。江戸から持ち込んだ館柳湾の書籍や大筆などを売りさばっていることもわかります。

渡辺秀英「巻菱湖史傳」（巻町双書「巻菱湖」所収）によれば、文政十三年に帰省した際に酒を飲



巻菱湖書簡巻子(部分)

収蔵資料紹介

飾り箱（二代目萬代橋の橋板製）

本資料は背板に「昭和四年 万代橋架替に当り西側參枚目橋板を以て造る」と墨書されていることから、二代目萬代橋の橋板を使って作られたものと考えられます。製作者は「大工 岩倉正吉」とあります。

二代目萬代橋は、明治四十一（一九〇八）年三月八日に発生した若狭屋火事で初代萬代橋が焼失した後、架橋された木橋です。水面下にある初代の橋脚を用いて上部を造り換える設計で、設計変更はほとんどなく、橋の長さは四三〇間（約七八二メートル）、橋脚の間隔二二間（約三二メートル）と、初代と同じ長さでした。橋のたもととの親柱、欄干なども初代とよ

く似た意匠で、見分けがつかないほどだったといえます。大正時代から自動車の通行が増え、敷板に穴が開くなど、消耗が進んだため、下流側に鉄筋コンクリート造のアーチ橋が架橋されました。

昭和四（一九二九）年八月に竣工した三代目の現萬代橋です。

三代目の架橋が進むにつれ、二代目萬代橋を名残惜しむ声が上がることがになり、昭和三年七月に市民有志が二代目の材木を払い下げてもらい、手工芸品を作る計画を立てたといえます。本資料はこの企画の中で生まれた一品であると思われれます。

（渡邊 久美子 学芸員）



二代目と三代目萬代橋を写した絵葉書 当館蔵